

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第79集

戸坂遺跡群

# 四ツ塚遺跡 I

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡 I 発掘調査報告書

2000.3

佐 久 市  
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第79集

戸坂遺跡群

# 四ツ塚遺跡 I

Y O T U Z U K A

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡 I 発掘調査報告書

2000.3

佐 久 市

佐久市教育委員会



四ツ塚遺跡 I 航空写真 (南から)



四ツ塚遺跡 I 航空写真 (西から)



四ツ塚遺跡 I 航空写真 (垂直)



H 3 号住居址全景（南から）



H 3 号住居址かまど



調査風景 (1)



調査風景 (2)

## 例 言

- 1 本書は、佐久市保健福祉部老人福祉拠点整備推進室による老人福祉拠点推進事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 調査委託者 佐久市大字中込 3056  
佐久市保険福祉部老人福祉拠点整備推進室
- 3 調査受託者 佐久市大字中込 3056  
佐久市教育委員会 依田 英夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地積  
戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡 I (TYM)  
佐久市大字新子田字供養塚866外1筆
- 5 調査期間及び面積 平成10年7月1日～平成10年8月21日 (現場作業)  
平成10年8月24日～平成12年3月31日 (整理作業)  
開発面積 7,500㎡  
調査面積 4,600㎡
- 6 調査担当者 上原 学
- 7 本書の執筆・編集は上原が行った。
- 8 整理作業分担 遺物復元 荒井ふみ子 小林まさ子 高橋サチコ  
遺物実測・図面修正 小林百合子 高橋敬子 比田井久美子 細谷秀子  
トレース 武者幸彦
- 9 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺跡の略称 TYM
- 2 遺構の略称 竪穴住居址-H 竪穴状遺構-Ta 掘立柱建物址-F 土坑-D  
溝状遺構-M
- 3 遺構の縮尺 竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑 1/80 溝状遺構 1/400 古墳 1/120
- 4 遺構の標高は各遺構図版上に明記。
- 5 土層・遺物の色調は1988年度版「新版 標準土色帖」を使用。
- 6 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。

# 目 次

巻頭カラー

例 言

凡 例

## 第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査の経緯	1
第 2 節 調査体制	3

## 第 II 章 基本層序

4

## 第 III 章 周辺遺跡

4

## 第 IV 章 遺構と遺物

第 1 節 竪穴住居址	9
H 1 号住居址	9
H 2 号住居址	10
H 3 号住居址	13
H 4 号住居址	16
H 5 号住居址	18
第 2 節 竪穴状遺構	20
T a 1 号竪穴状遺構	20
T a 2 号竪穴状遺構	21
第 3 節 掘立柱建物址	21
第 4 節 土坑	22
D 1 号土坑～D10号土坑	22
第 5 節 古墳跡	23
第 6 節 溝状遺構	28

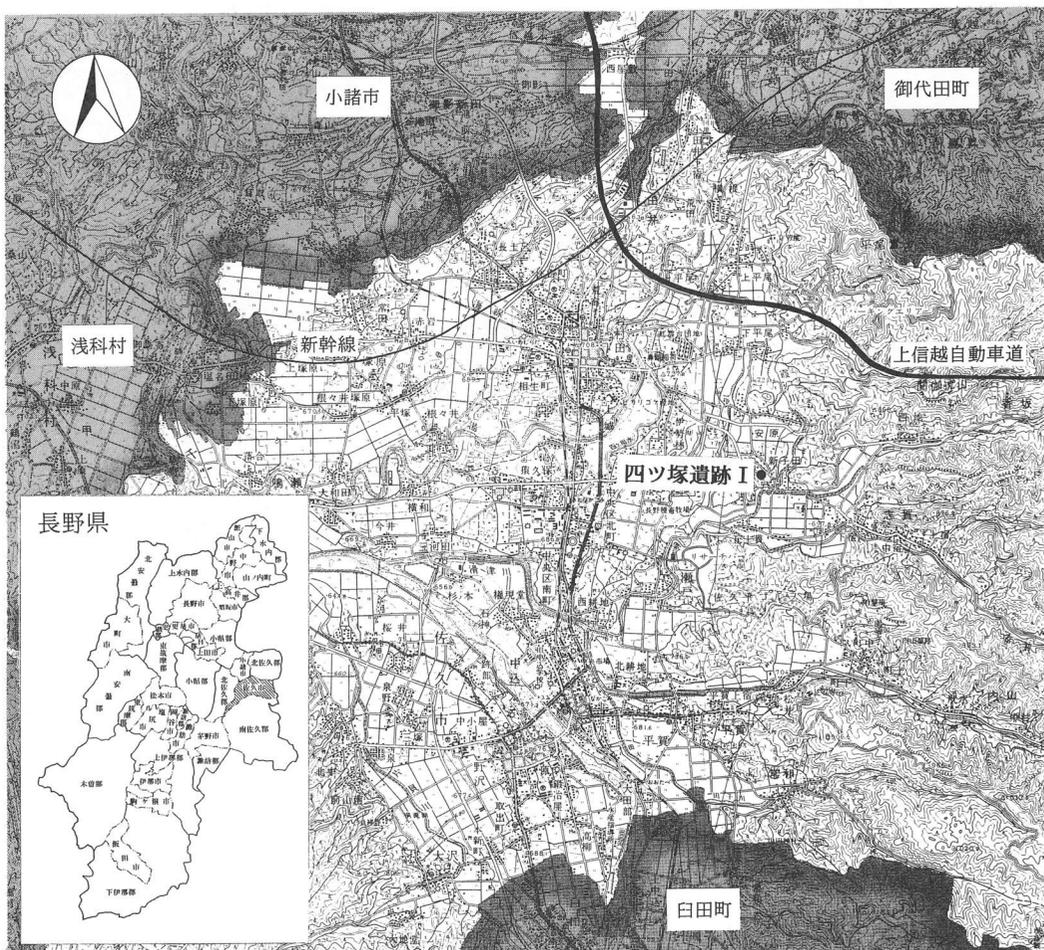
写真図版

# 第 I 章 発掘調査の経緯

## 第 1 節 発掘調査の経緯

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡は佐久市大字新子田地積に所在し、湯川の東に広がる標高705m内外の台地東端に展開する。調査区は平成2年に遺跡の南東に建築された東小学校に志賀小学校とともに統合された三井小学校の跡地である。また調査区周辺は以前、数基の古墳が存在していたとされる地域であるが、現在は四ツ塚古墳1基が認められるだけである。

今回、佐久市保健福祉部老人福祉拠点整備推進室による老人福祉拠点推進事業が行われることとなり、開発地域における遺構の存在を確認するため、平成10年3月に試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址、溝跡等が認められたため、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。



四ツ塚遺跡 I 位置図 (1:100,000)



四ツ塚遺跡 I 位置図 (1 : 10,000)

## 第 2 節 調査体制

### 平成10年度

教 育 長	依田 英夫
教 育 次 長	北沢 馨
埋蔵文化財課長 (兼) 管理係長	須江 仁胤
埋蔵文化財係長	荻原 一馬
埋蔵文化財係	林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学
調 査 主 任	佐々木 宗昭 森泉 かよ子

### 平成11年度

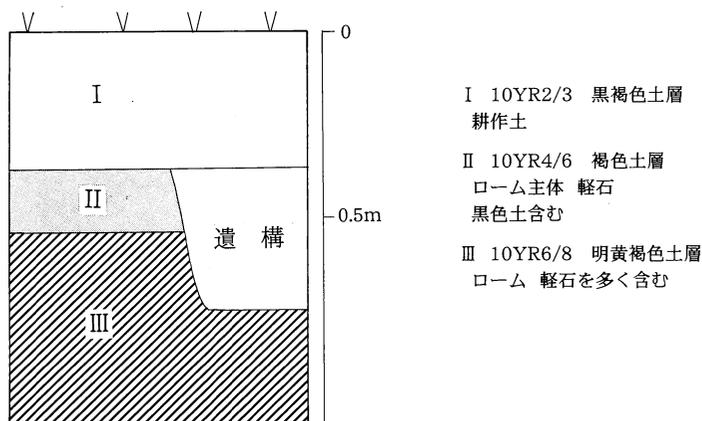
教 育 長	依田 英夫
教 育 次 長	小林 宏造
文化財課長	草間 芳行
文化財係長	荻原 一馬
文化財係	林 幸彦 須藤 隆司 小林 眞寿 羽毛田 卓也 富沢 一明 上原 学 出澤 力 山本 秀典
調 査 主 任	佐々木 宗昭 森泉 かよ子

### 平成10・11年度

調 査 担 当 者	上原 学
調 査 員	碓氷 智子 碓氷 英之 荒井 ふみ子 大井 みつる 柏木 義雄 小林 まさ子 小林 百合子 佐々木 正 佐々木 久子 佐藤 剛 清水 佐知子 関口 正 高橋 サチコ 高橋 敬子 田中 章雄 成沢 富子 花里 四之助 花里 三佐子 林 幸男 比田井 久美子 細谷 秀子 若林 希 渡辺 久美子 渡辺 倍男 武者 幸彦

## 第二章 基本層序

四ツ塚遺跡Ⅰ発掘調査における層序は3層認められた。Ⅰ層は黒褐色の表土で、Ⅱ層は表土とロームに挟まれた褐色土、Ⅲ層は黄褐色のローム土である。このうち遺構はⅡ層上面において検出可能であった。



基本層序模式図

## 第三章 周辺遺跡

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡の所在する湯川左岸に広がる台地周辺には、幾つもの遺跡群・遺跡が認められる。西には高師町遺跡群、東には池端遺跡、権現平遺跡、境内遺跡、北に筏室遺跡群、宿上屋敷遺跡、筒畑遺跡群、光明寺遺跡、南に家之前遺跡、戸坂遺跡が所在する。またこの付近には古墳も数多く築造されている。それらは今回調査対象地となった戸坂遺跡群内の四ツ塚古墳、東の氏神古墳群、北の安原大塚古墳、北東の入大久保古墳群である。またこの付近は西に丘陵地がせまるといった地理的条件から中世の山城と称される地域も多く、北に燕城跡、東に池端城跡、南に浅井城跡、鳥坂城跡が所在する。

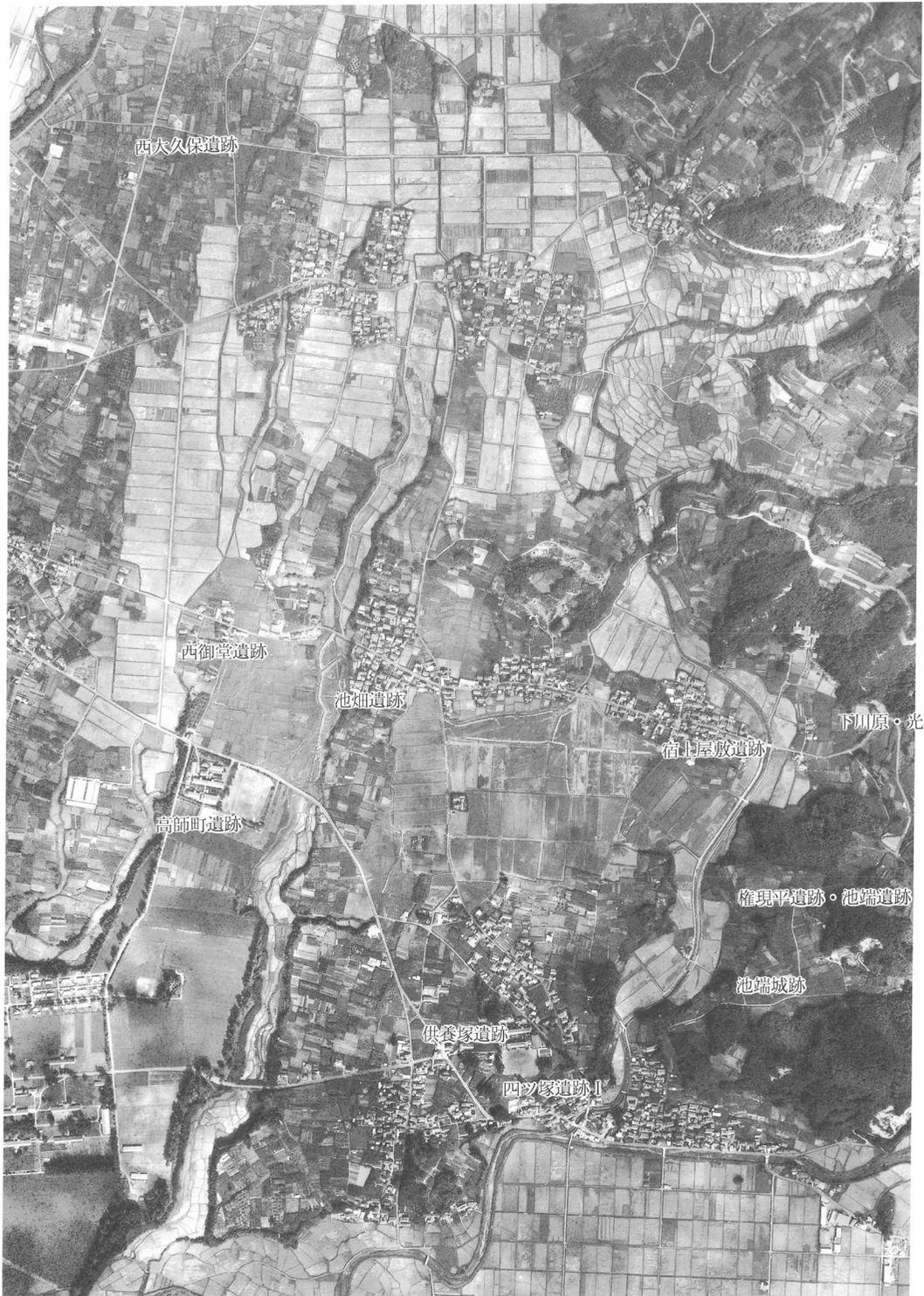
周辺地域における発掘調査例は調査区西の高師町遺跡、供養塚遺跡、東の権現平・池端遺跡、北の池畑・西御堂遺跡、宿上屋敷遺跡、下川原・光明寺遺跡があげられる。各遺跡の調査状況を見ると、四ツ塚遺跡北方の安原地積に認められる南北方向に延びる田切りに挟まれた台地上に位置する池畑・西御堂遺跡は、昭和60年に道路改良事業に伴い発掘調査が行われ、池畑遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴住居址、溝状遺構、奈良から9世紀代の土坑が検出され、西御堂遺跡からは土坑が検出された。同じく安原地積に位置する宿上屋敷遺跡、下川原・光明寺遺跡は西方から迫る丘陵地との境付近の平坦な台地及び緩斜面上に位置し、昭和61年度に道路改良工事に伴い調査が行われ、宿上遺跡では古墳・平安時代の竪穴住居址、土坑等を検出、下川原・光明寺遺跡では中世の竪穴状遺構、溝状遺構、土坑等が検出された。また西方の新子田地積に認められる南北方向に延びる田切りに挟まれた台地上に位置する高師町遺跡では、昭和61年度に道

路建設に伴う高師町遺跡の調査が、平成7年度には葬祭センター建設に伴い高師町遺跡Ⅱの調査が行われ、高師町遺跡では平安時代と思われる土師器・須恵器を伴う竪穴状遺構、時期不明土坑、溝等が、高師町遺跡Ⅱでは平安時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、平安・中世の土坑、溝状遺構等が検出された。東方の権現平・池端遺跡では宅地造成に伴い平成6年度に調査が行われ、調査区の掘削部及び道路部分の調査ではあったが、縄文・古墳・平安時代の竪穴住居址・土坑、中世の竪穴状遺構、井戸跡等多くの遺構を検出した。また、平成7年度には平成6年度調査区の南に接する地域において土地の造成工事に伴い池端城跡の調査が行われ、縄文・古墳・奈良・平安時代の竪穴住居址、土坑、中世の竪穴状遺構、土坑、ピット群等が検出された。また発掘調査が行われた遺跡中、最も四ツ塚遺跡に近接する供養塚遺跡では、平成10年度に児童館建設に伴い調査が行われ、奈良時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、溝状遺構が検出され、検出した遺構の時期・形態から四ツ塚遺跡と供養塚遺跡の住居址は同一集落と考えられた。

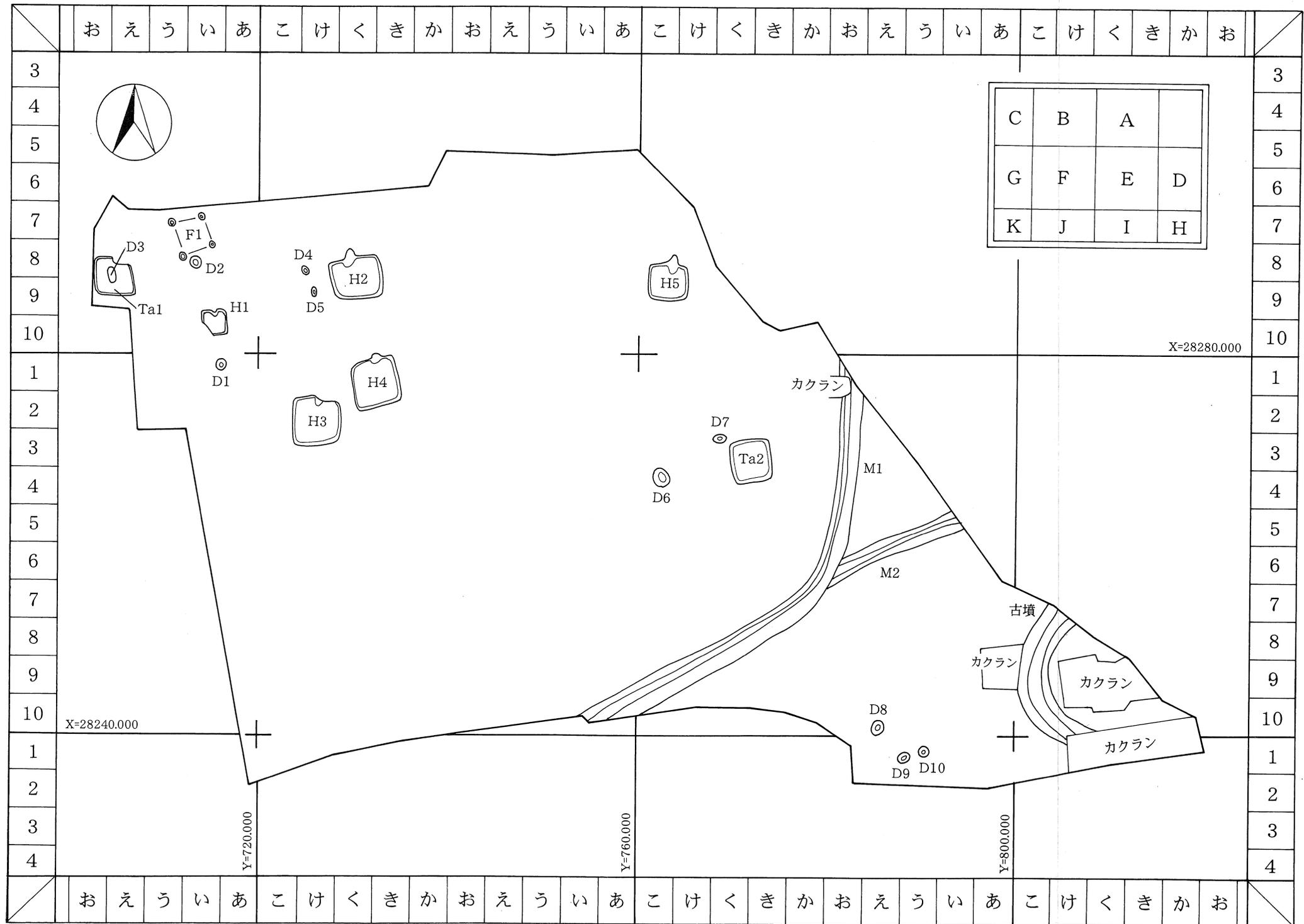
以上、四ツ塚遺跡周辺では古くは東方向から迫る丘陵地帯の斜面上を利用して縄文時代の集落が形成され、(権現平遺跡) その後は丘陵地の緩斜面(権現平遺跡・池端遺跡) または湯川左岸の田切りに挟まれた南北に長い台地上(高師町遺跡、宿上屋敷遺跡、池畑遺跡等) に弥生時代末から平安時代にかけての生活の痕跡が見受けられるようになる。また古墳時代に築かれた古墳は、丘陵地の沢に入り込んだ日当たりの良い南斜面(入大久保古墳群)あるいは、台地の先端・縁辺部(四ツ塚古墳、氏上古墳群)といった地形を利用し築造されている。さらに中世になると丘陵地、独立丘陵(燕城跡)あるいは丘陵地に接するやや小高い台地上(池端城跡)を利用した城、山城が築かれるようになる。

遺跡名	住所	縄	弥	古	奈	平	中	備考
高師町遺跡	新子田字高師町					○	○	S61、H7・8調査
池端遺跡	新子田字池端・権現平	○		○	○	○	○	H6調査
権現平遺跡	安原字権現平	○		○	○	○	○	H6調査
境内遺跡	新子田字境内		○	○	○	○		
筏室遺跡群	安原字筏室・城前 外			○	○	○		
宿上屋敷	安原字上屋敷			○		○		S62調査
筒畑遺跡群	安原字筒畑・池畑 外	○	○	○		○		S61調査
下川原遺跡	安原字下川原					○	○	S61調査
光明寺遺跡	安原字光明寺					○	○	S61調査
家之前遺跡	新子田字家之前		○	○	○	○		
池畑遺跡	安原字池畑		○	○	○	○		S60調査
西御堂遺跡	安原字西御堂		○	○		○	○	S60調査
供養塚遺跡	新子田字供養塚				○			H10調査
四ツ塚古墳	新子田字四ツ塚				○			
氏神古墳群	新子田字氏神				○			
安原大塚古墳	安原字城前				○			
入大久保古墳群	香坂字入大久保				○			
燕城跡	安原字城山・城裏						○	
池端城跡	新子田字池端	○		○		○	○	H7調査
鳥坂城跡	新子田字戸坂						○	
浅井城跡	新子田字丑ヶ久保						○	
西大久保遺跡	上平尾・下平尾					○		S61調査

周辺遺跡表



四ツ塚遺跡Ⅰ周辺航空写真

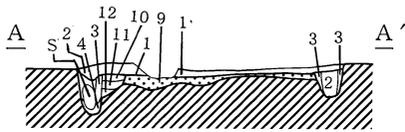
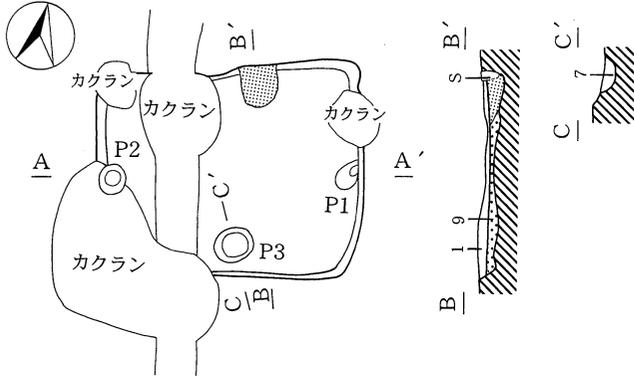


四ツ塚遺跡 I 遺構配置図 (1:500)

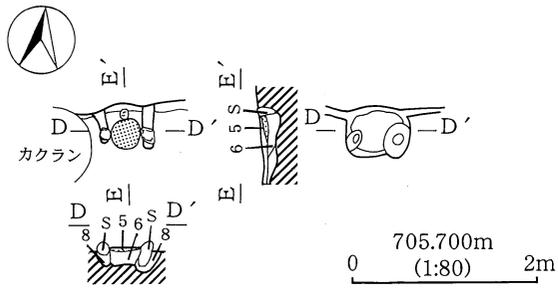
# 第IV章 遺構と遺物

## 第1節 竪穴住居址

### H 1号住居址



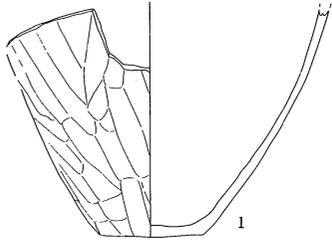
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 軽石、ロームブロック、しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。軽石含む。しまりなし。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体。軽石含む。しまりなし。
- 5 暗赤褐色土(5YR3/6) 焼土層(火床)
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物、軽石含む。しまりなし。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを多量に含む。しまりあり。
- 8 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む。しまりあり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 軽石、ロームを多く含む。しまりあり。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 軽石を含む。しまりあり。
- 11 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロックを含む。
- 12 褐色土(10YR4/4) 軽石、ローム粒、黒色土を含む。しまりあり。



H 1号住居址実測図

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	掘 方(cm)	出土遺物	重複遺構
H 1	C-い-10	方形	北壁中央	奈良	3	2~4	12~18	須恵器 土師器	南西隅攪乱
規 模	cm	壁 長	壁 高	遺構は調査区北西隅に位置する。壁高は8~10cmと浅い。床面は2~4cmの厚さで貼り床され堅くしまっている。ピットは床面上から3個確認でき、このうち東西壁際の中央に位置する2個のピットが主柱穴と思われる。かまどは北壁の中央に位置し、袖及び火床の一部が残存していた。火床には厚さ8cm内外の焼土が堆積し、その北側には支脚と思われる石が埋め込まれていた。掘方は12~18cmの厚さで掘り込まれ、鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。					
	北壁	268	5~12						
	南壁	(250)	7~14						
	東壁	224	9~11						
西壁	(230)	7~10							
遺物は土師器・須恵器が出土した。図示できたのは1点で土師器の壺である。									

H 1号住居址観察表

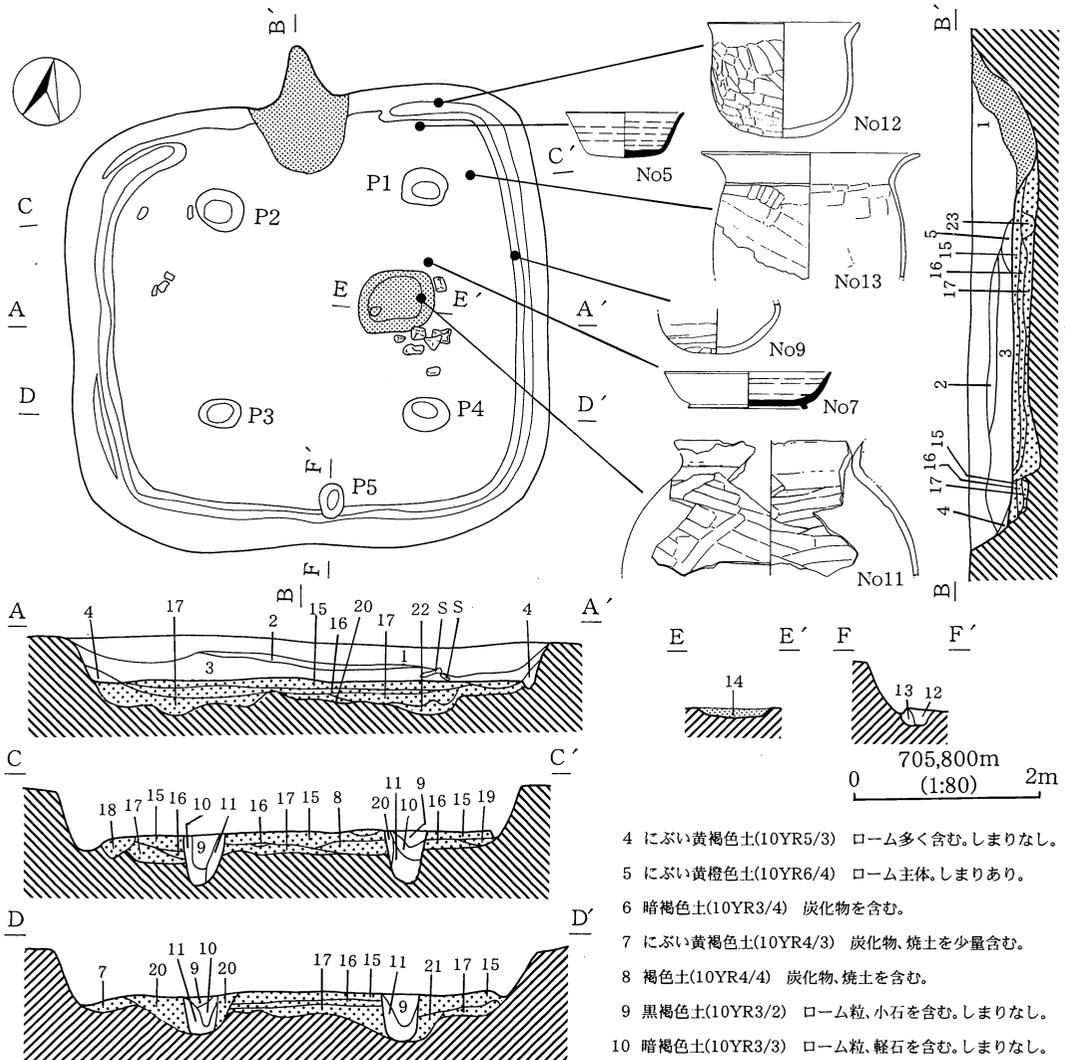


番号	器種	器形	口径 cm	底径 cm	器高 cm
1	土師器	甕	-	5.6	-
調整			残存率%	焼成	色調
外面	ヘラ削り		底部・	良好	5YR5/4
内面	ヘラナデ		体部下半		鈍い赤褐色

H 1 号住居址出土遺物観察表

H 1 号住居址出土遺物実測図

## H 2 号住居址

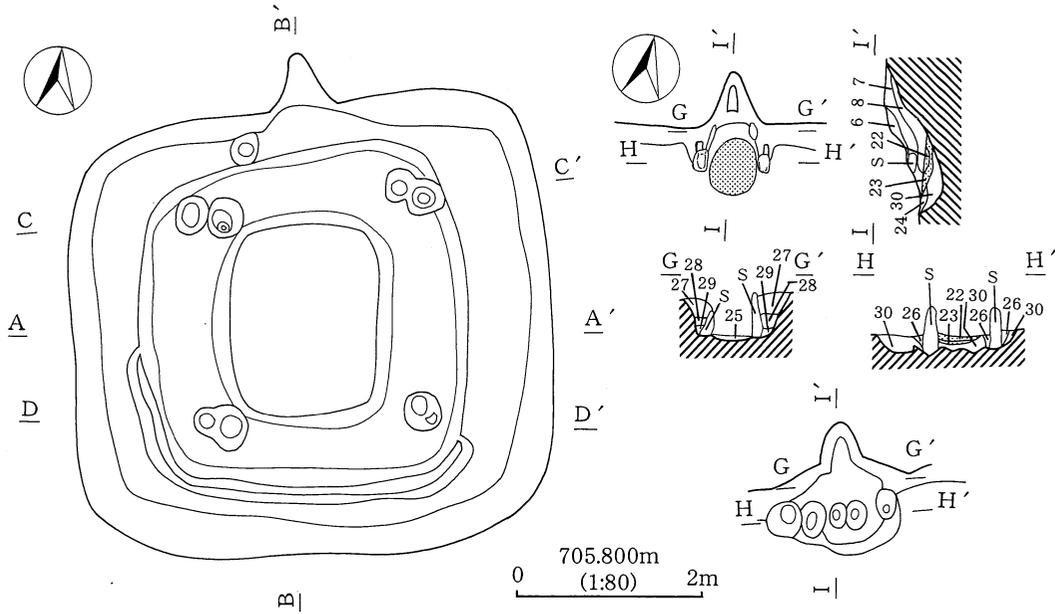


- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック粒、軽石を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック粒、軽石を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/2) ロームブロック粒、軽石を含む。

- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム多く含む。しまりなし。
- 5 にぶい黄橙色土(10YR6/4) ローム主体。しまりあり。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物を含む。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物、焼土を少量含む。
- 8 褐色土(10YR4/4) 炭化物、焼土を含む。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒、小石を含む。しまりなし。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石を含む。しまりなし。
- 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。
- 12 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石含む。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。

H 2 号住居址実測図 (1)

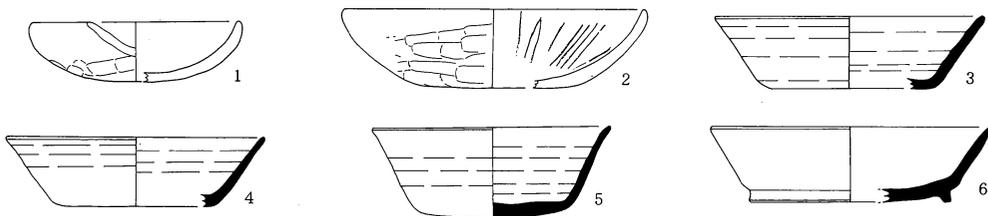
- 14 明赤褐色土(5YR5/8) 焼土層。しまりあり。  
 15 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム主体。しまりあり。  
 16 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを多く含み、軽石を含む。しまりあり。  
 17 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。しまりなし。  
 18 褐色土(10YR4/4) ロームを多く含む。しまりあり。  
 19 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体。しまりややあり。  
 20 灰黄褐色土(10YR6/2) ローム主体。しまりややあり。  
 21 灰黄褐色土(10YR6/2) ローム主体。しまりなし。  
 22 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土層。 23 橙色土(5YR6/6) 焼土層。  
 24 褐色土(10YR4/4) 焼土、灰を含む。しまりなし。  
 25 褐色土(10YR4/3) 焼土、灰を含む。しまりなし。  
 26 褐色土(10YR4/6) ローム主体。黒褐色土を含む。しまりなし。  
 27 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 炭化物、焼土、軽石を含む。しまりあり。  
 28 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、軽石、炭化物を含む。しまりややあり。  
 29 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム多く含む。しまりなし。  
 30 褐色土(10YR4/4) 灰、焼土を含む。しまりなし。



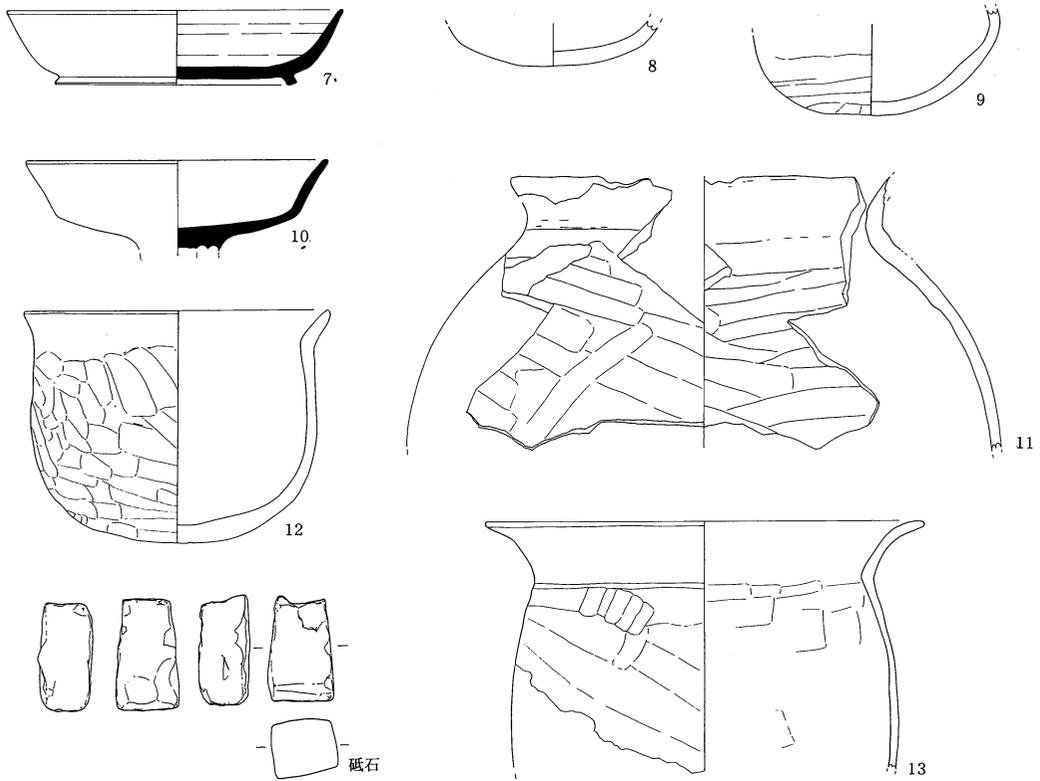
H 2 号住居址実測図 (2)

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	堀 方(cm)	出土遺物	重複 遺 構
H 2	B-く-9	隅丸方形	北壁中央	奈良	5 + 1	3 ~ 9	14 ~ 24	須恵器 土師器	
規 模	cm	壁 長	壁 高	遺構は調査区北西に位置する。壁高は45~68cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。床面は堅く貼り床され、壁際には幅15cm、深さ12cm内外の周溝が存在する。ピットは床面上で5個確認でき、このうちP 1 ~ P 4 が主柱穴である。かまどは北壁中央に構築されており、袖の一部及び火床が残存していた。袖の先端及び内壁には石材が使用され、火床には10cmの焼土が堆積していた。堀方は中央及び壁際を浅く、その間を深くドーナツ状に掘り込み、鈍い黄褐色土を埋め込んでいた。					
	北壁	448	45~60						
	南壁	443	59~46						
	東壁	431	54~47						
西壁	380	58~68							
遺物は須恵器環、高環、土師器環、甕、広口壺、甕が出土した。図示できたのは13点である。									

H 2 号住居址観察表



H 2 号住居址出土遺物実測図 (1)

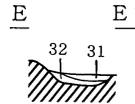
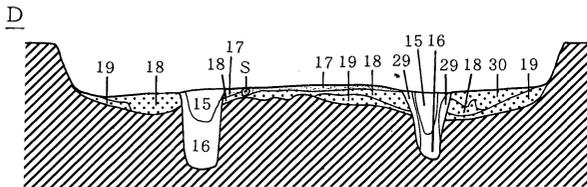
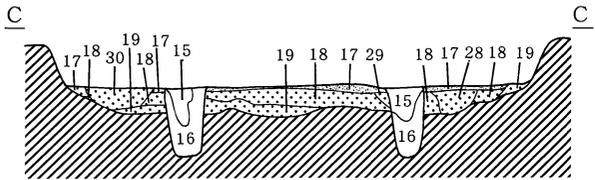
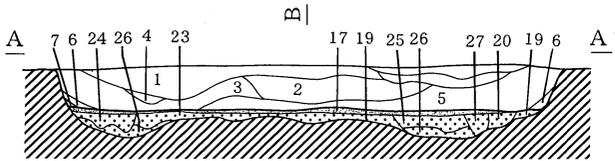
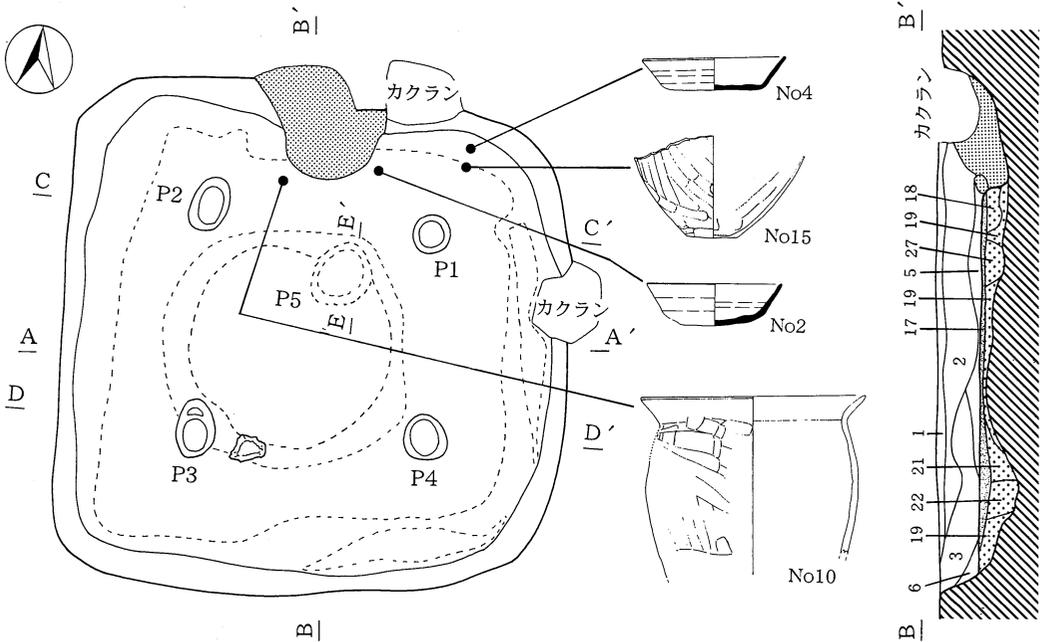


H 2 号住居址出土遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	(10.8)	丸底	3.2	外面	底部付近ヘラ削り	20	良	5YR6/6 橙色	
2	土師器	坏	(16.1)	(8.4)	4.1	外面 内面	体部ヘラ削り ミガキ	20	良	7.5YR6/6 橙色	
3	須恵器	坏	(12.0)	(9.0)	3.8	内外面	ヘラ削り	20	良好	10YR7/3 鈍い黄橙色	
4	須恵器	坏	(13.8)	(7.8)	3.7	内外面	ロクロナデ	15	良好	2.5Y4/1 黄灰色	
5	須恵器	坏	(12.6)	7.9	4.8	内外面 底部	ヨコナデ 回転ヘラ切り	40	良好	2.5Y7/3 浅黄色	
6	須恵器	高台付坏	(14.9)	(10.7)	4.0	内外面 底部	ロクロナデ 高台貼り付け	20	良好	7.5Y6/2 灰オリーブ色	
7	須恵器	高台付坏	17.9	12.7	3.9	内外面 底部	ロクロナデ 回転糸切り後高台貼り付け	80	良好	5Y4/1 灰色	
8	土師器	鉢	-	丸底	-	底部	ヘラ削り	底部40	良	5YR6/6 橙色	
9	土師器	甕	-	丸底	-	内外面	ハケ目	底部100	良好	7.5YR6/6 橙色	
10	須恵器	高坏	(16.0)	-	-	内外面	ロクロナデ	坏部40	良	10YR6/2 灰黄褐色	ヘラ記号
11	土師器	甕	-	-	-	口縁 内面	ヨコナデ 外面 ヘラ削り ヘラナデ	口縁50	良好	5YR6/6 橙色	
12	土師器	広口壺	16.3	丸底	12.4	口縁 内面	ミガキ 外面 ミガキ ヘラ削り	80	良好	7.5YR6/6 橙色	
13	土師器	甕	(23.2)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ 外面 ヘラ削り ヘラナデ	口縁45	良好	10YR6/3 鈍い黄褐色	

H 2 号住居址出土遺物観察表

### H 3 号住居址

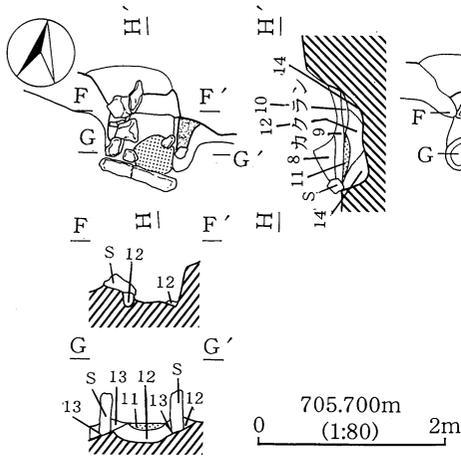


705,700m  
(1:80) 2m

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒、ロームブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ロームブロックを含む。しまりなし。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒、焼土含む。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体、暗褐色土を含む。しまりなし。
- 7 褐色土(10YR4/4) ローム主体。暗褐色土を含む。しまりなし。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石、焼土含む。

- 9 明赤褐色土(5YR3/4) 焼土、炭化物を多く含む。
- 10 明赤褐色土(5YR3/3) 焼土、炭化物を多く含む。
- 11 橙色土(5YR6/6) 焼土層。軽石を含む。しまりなし。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土、炭化物を含む。
- 13 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土、ローム粒を含む。
- 14 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。焼土、炭化物含む。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロックを含む。しまりなし。
- 16 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体、黒褐色土を含む。しまりなし。
- 17 暗褐色土(10YR3/4) はり床。軽石、ロームブロックを含む。しまりなし。
- 18 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。黒褐色土を含む。しまりなし。
- 19 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム主体。しまりなし。
- 20 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒、ロームブロックを多く含む。しまりなし。
- 21 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりなし。
- 22 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ロームブロックを含む。しまりなし。
- 23 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりややあり。
- 24 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ロームブロックを多く含む。

H 3 号住居址実測図

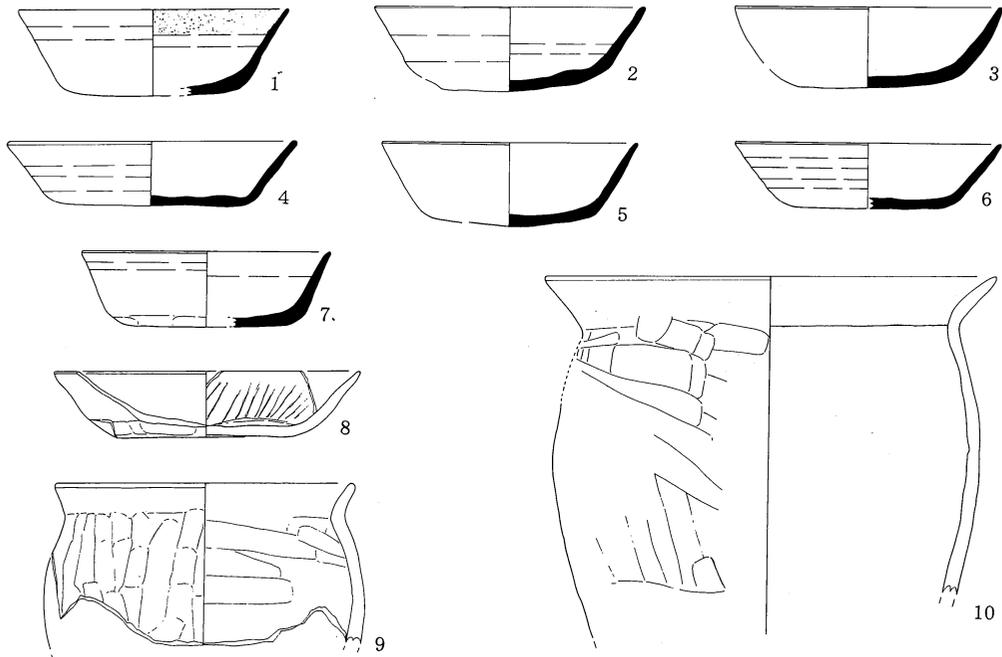


- 25 褐色土(10YR4/4) ローム主体。しまりややあり。
- 26 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。しまりなし。
- 27 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒、黒色土を含む。
- 28 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム粒を含む。  
しまりなし。
- 29 褐色土(10YR4/4) 軽石、暗褐色土を含む。しまりなし。
- 30 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ロームを含む。
- 31 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。しまりなし。
- 32 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒含む。しまりなし。

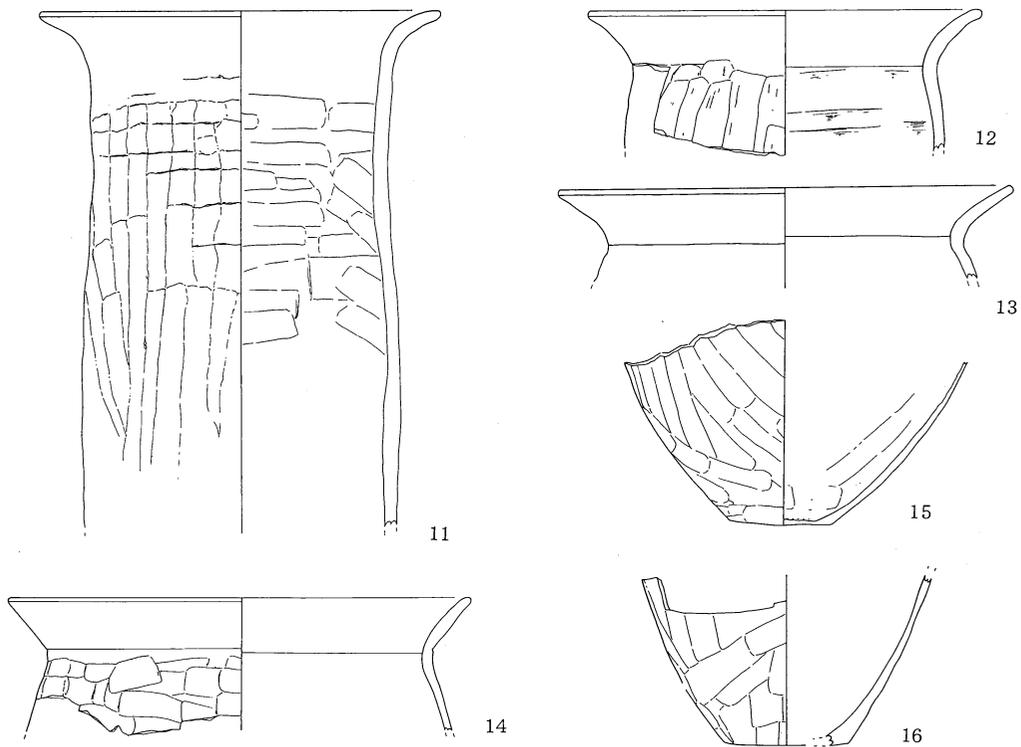
H 3 号住居址かまど実測図

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	堀 方(cm)	出土遺物	重複 遺 構
H 3	F-け-2	隅丸方形	北壁中央	奈良	4	4~6	12~28	須恵器 土師器	
規 模	cm	壁 長	壁 高	遺構は調査区中央の北西よりに位置する。壁高は40~54cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。床は堅く貼り床され、主柱穴と思われるピットが4個確認できた。かまどは北壁中央に構築され一部攪乱に破壊されているが、両袖の一部及び火床が残存していた。袖先端及び内壁の一部に石が利用され、赤く焼けていた。焚き口付近には袖先端部に乗せられたと思われる長方形に加工された石材が崩落し横たわっていた。火床には厚さ6cmの焼土が堆積していた。掘方は床下全面に8~25cmの厚さで掘り込まれ、鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。					
	北壁	495	42~54						
	南壁	500	40~52						
	東壁	450	43~45						
西壁	500	40~51							
遺物は須恵器坏、甕、土師器坏、甕、広口壺が出土した。图示できたのは16点である。									

H 3 号住居址観察表



H 3 号住居址出土遺物実測図 (1)

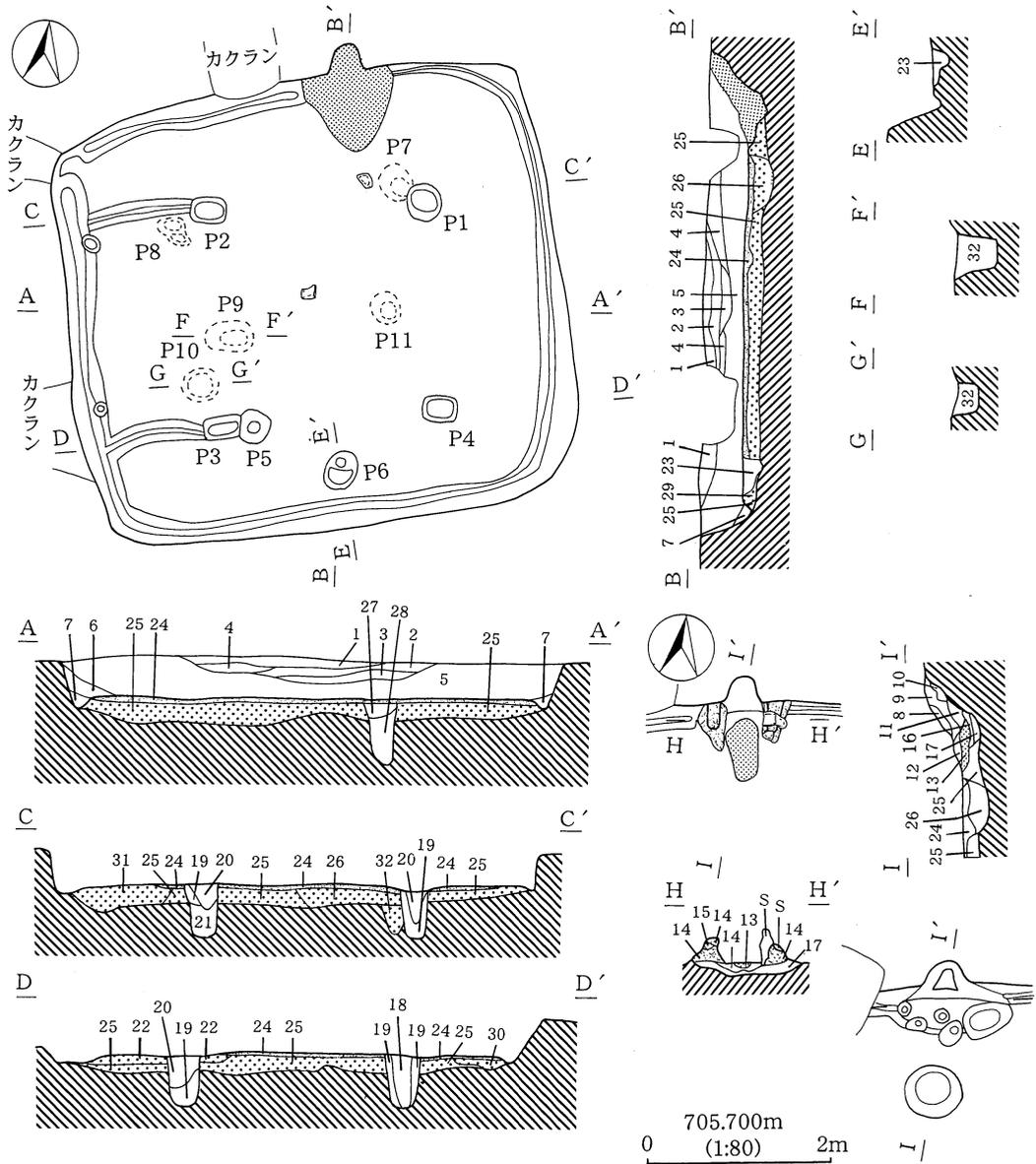


H 3 号住居址出土遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調	整	残存率%	焼成	色調	備考	
1	須恵器	坏	(14.2)	(7.9)	4.6	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	45	良好	10YR4/2 灰赤色		
2	須恵器	坏	(14.6)	7.6	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	75	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色		
3	須恵器	坏	14.2	8.5	4.3	内外面 底面	ロクロナデ ヘラ削り	60	良好	7.5YR7/6 橙色		
4	須恵器	坏	15.4	8.0	3.6	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ削り	75	良好	10YR4/1 褐灰色	底部ヘラ 記号	
5	須恵器	坏	(13.6)	8.6	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	40	良好	5YR4/3 鈍い赤褐色		
6	須恵器	坏	(14.2)	(8.0)	4.5	内外面 底面	ロクロナデ 回転ヘラ切り	25	良好	2.5Y6/3 灰黄色		
7	須恵器	坏	(13.2)	(7.6)	4.0	内外面 底面	ロクロナデ ヘラ削り	30	良好	N5/ 灰色		
8	土師器	坏	(18.2)	(9.0)	3.5	内面 底面	ミガキ ヘラ削り	20	良好	5YR6/6 橙色		
9	土師器	甕	(16.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	25	良	5YR6/3 鈍い橙色	
10	土師器	甕	(24.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	15	良好	5YR5/6 明赤褐色	
11	土師器	甕	(21.2)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	30	良	7.5YR7/4 鈍い橙色	
12	土師器	甕	(21.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁30	良	7.5YR6/6 鈍い褐色	
13	土師器	甕	(24.0)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁15	良好	5YR6/3 鈍い橙色	
14	土師器	甕	(22.6)	-	-	口縁 内面	ヨコナデ ヘラナデ	外面 ヘラ削り	口縁35	良	7.5YR5/4 鈍い褐色	
15	土師器	甕	-	5.5	-	内面 外面	ヘラナデ ヘラ削り	底部周辺	良好	7.5YR2/3 暗褐色		
16	土師器	甕	-	6.6	-	外面 内面	ヘラ削り ヘラナデ	底部70	良	7.5YR5/4 鈍い褐色		

H 3 号住居址出土遺物観察表

# H 4 号住居址



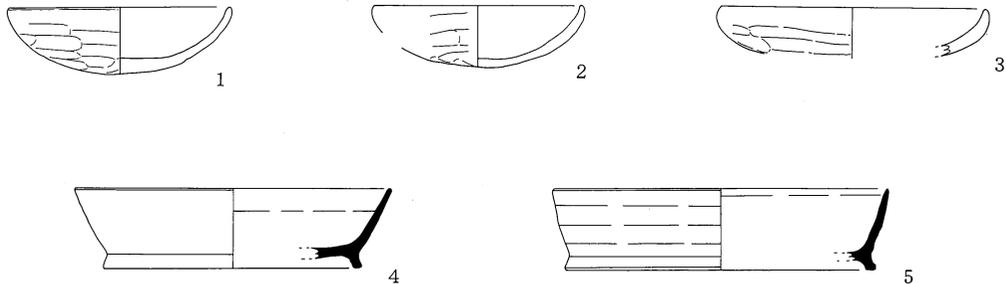
- 1 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 軽石、ローム粒・炭化物含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒・炭化物含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒・炭化物含む。しまりあり。
- 6 黄褐色土(10YR5/6) ローム主体。しまりあり。
- 7 褐色土(10YR4/6) ローム主体。しまりなし。
- 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒、焼土、炭化物含む。しまりややあり。
- 9 黒褐色土(10YR2/3) 粘土、ローム粒、焼土、炭化物を含む。しまりなし。
- 10 にぶい黄褐色土(10YR7/4) 焼土、灰を多く含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/3) 粘土、ローム粒、焼土、炭化物を含む。しまりなし。
- 12 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土多量に含む。しまりなし。
- 13 赤褐色土(5YR4/6) 焼土層。しまりなし。
- 14 暗灰色土(N3/0) 粘土層。しまりあり。
- 15 灰色土(N4/0) 粘土層。しまりあり。

H 4 号住居址実測図

- 16 褐色土(10YR4/1) 軽石、灰を含む。しまりなし。  
 17 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム主体、暗褐色土含む。しまりなし。  
 18 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物、軽石含む。しまりなし。  
 19 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。しまりややあり。  
 20 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりあり。  
 21 褐色土(10YR4/4) 粒子細かく、しまりなし。  
 22 褐色土(10YR4/3) 軽石含む。粒子細かい。しまりなし。  
 23 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒含む。しまりなし。  
 24 にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりあり。(貼り床)
- 25 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりややあり。  
 26 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック、軽石、炭化物含む。  
 27 にぶい黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりあり。  
 28 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム主体。しまりなし。  
 29 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。  
 30 暗褐色土(10YR3/4) ローム、軽石含む。しまりあり。  
 31 褐色土(10YR4/4) ローム主体、軽石含む。しまりややあり。  
 32 褐色土(10YR4/4) ローム主体。軽石含む。しまりなし。

遺構No.	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱穴(個)	貼り床(cm)	掘方(cm)	出土遺物	重複遺構
H 4	F-き-1	隅丸方形	北壁	奈良	6+5	4~7	18~28	須恵器 土師器	中央付近に東西 方向の攪乱
規 模	cm	壁長	壁高	遺構は調査区北に位置する。壁高は36~54cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。床は強く貼り床され、壁際に幅18cm、深さ15cm内外の周溝が存在した。ピットは床面上で6個確認できP1~P4が主柱穴と考えられP2、P3の東には壁際から溝が掘り込まれているため、間仕切りの存在が伺える。かまどは北壁のやや東よりに構築され、袖の一部が残存し先端の一部に石材が使用されこれを粘土で覆っていた。火床には焼土の堆積が認められた。掘方は床下全体にわたって掘り込まれ、鈍い黄褐色が埋め込まれていた。掘方から新たに5個のピットが確認できた。					
	北壁	485	36~42						
	南壁	475	48~54						
	東壁	460	42~54						
西壁	445	44~50							
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕が出土した。図示できたのは5点である。									

H 4 号住居址観察表

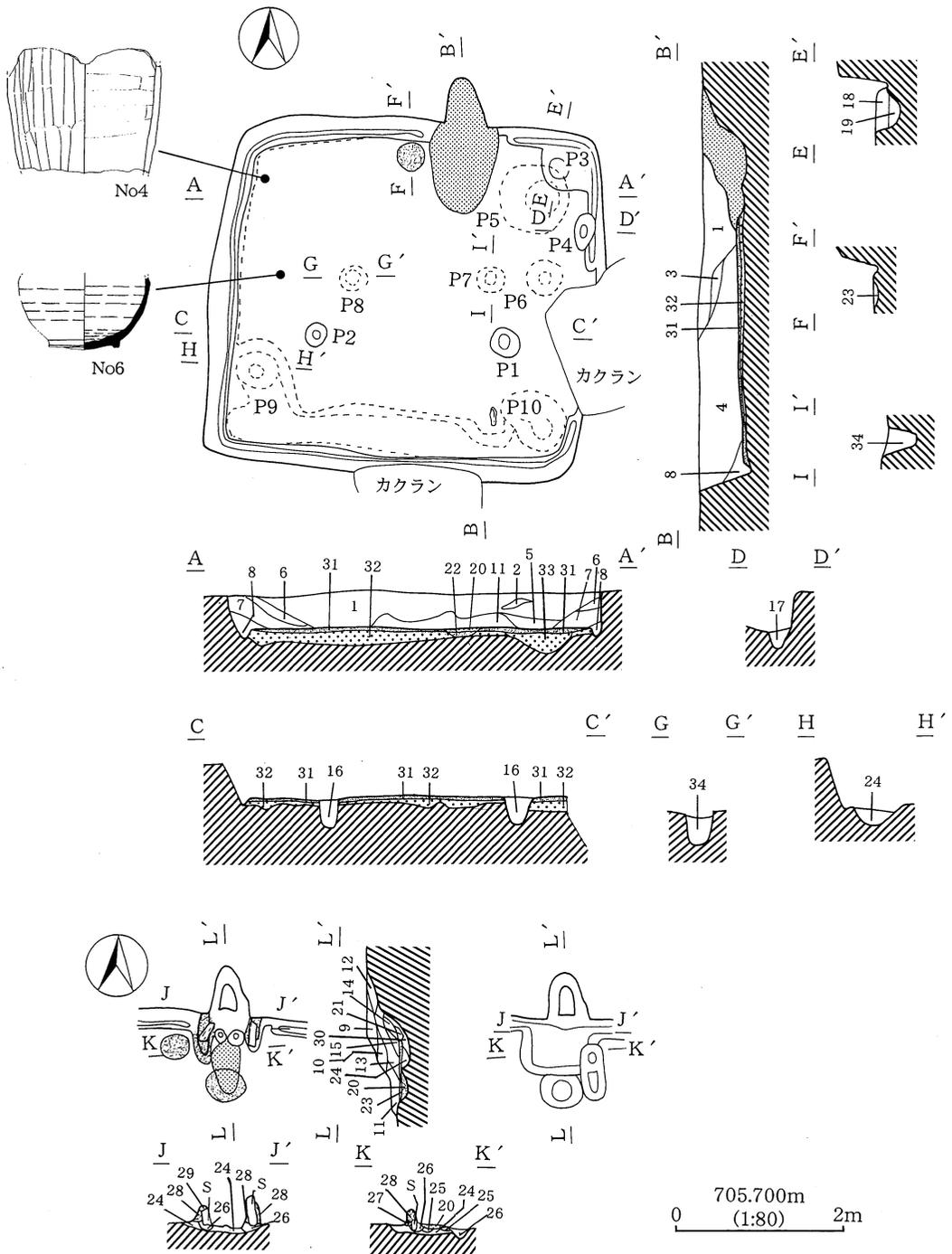


H 4 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	11.8	丸底	3.5	外面 ヘラ削り	90	良好	5YR6/6 橙色	
2	土師器	坏	(11.0)	丸底	3.3	外面 ヘラ削り	20	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
3	土師器	坏	(14.0)	-	-	外面 ヘラ削り	口縁20	良好	7.5YR7/6 橙色	
4	須恵器	高台付坏	(16.8)	(13.8)	4.2	内外面 ロクロヨコナデ 底部 高台張り付け	10	良好	2.5GY5/1 灰オリーブ色	
5	須恵器	高台付坏	(17.8)	(16.4)	4.3	内外面 ロクロヨコナデ 底部 高台張り付け	15	良好	2.5GY5/1 灰オリーブ色	

H 4 号住居址出土遺物観察表

H 5 号住居址

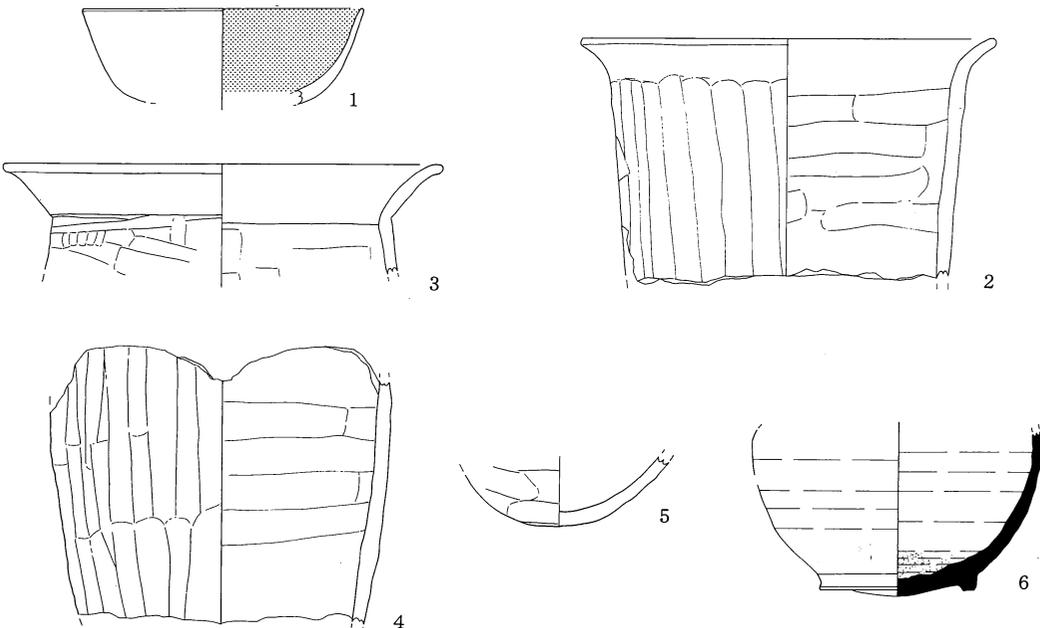


H 5 号住居址実測図

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) ロームブロック。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 軽石、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム多く含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム多く含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 軽石、ローム粒含む。しまりあり。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ローム粒、ロームブロック含む。
- 9 褐色土(10YR4/6) 軽石含む。ローム土多く含む。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒少量含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 軽石、ロームブロック多く含む。
- 12 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック含む。
- 13 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒、ロームブロック、軽石多く含む。
- 14 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック、軽石多く含む。
- 15 明黄褐色土(10YR6/3) 白色粘土層。しまりあり。
- 16 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒含む。しまりなし。
- 17 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粒子粗くしまりなし。
- 18 黒褐色土(10YR2/3) 軽石、ローム粒含む。
- 19 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム主体。しまりなし。
- 20 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土層。
- 21 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土、炭化物含む。しまりなし。
- 22 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、軽石、炭化物含む。しまりなし。
- 23 灰色土(5YR4/1) 粘土層。しまりあり。
- 24 にぶい褐色土(7.5YR5/3) ローム主体。焼土含む。
- 25 明褐色土(7.5YR5/6) 焼土、炭化物含む。
- 26 褐色土(7.5YR4/4) 焼土、ローム粒含む。しまりなし。
- 27 暗褐色土(10YR3/3) 粘土層。しまりあり。
- 28 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘土層。しまりあり。
- 29 暗赤褐色土(5YR3/3) 焼土、炭化物多く含む。
- 30 褐色土(10YR4/4) 粘土、焼土含む。
- 31 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。(貼り床)
- 32 明黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりややあり。
- 33 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒、ロームブロック、軽石含む。
- 34 明黄褐色土(10YR6/3) ローム主体。しまりなし。

遺構No	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱 穴(個)	貼り床(cm)	掘 方(cm)	出土遺物	重複 遺 構
H 5	A-こ-9	隅丸方形	北壁中央	奈良	4 + 6	2 ~ 6	2 ~ 18	土師器 須恵器	東壁に攪乱
規 模	cm	壁 長	壁 高	遺構は調査区北端に位置する。壁高は33~50cmを測り、やや外傾気味に立ち上がる。壁際には幅15cm、深さ10cm内外の周溝が存在した。床は貼り床され、ピットは4個確認できた。P 1、P 2が主柱穴と考えられる。かまどは北壁のやや東よりに構築され、袖及び火床の一部が残存していた。袖の先端及び内壁の一部には石材が使用され外側を粘土で覆っていた。掘方は、床下2~18cmの厚さで掘り込まれ、暗褐色土が埋め込まれていた。掘方からは新たに6個のピットが認められた。					
	北壁	390	37~46						
	南壁	425	40~47						
	東壁	375	33~47						
西壁	360	37~50							
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、甕、壺が出土した。図示できたのは6点である。									

H 5 号住居址観察表



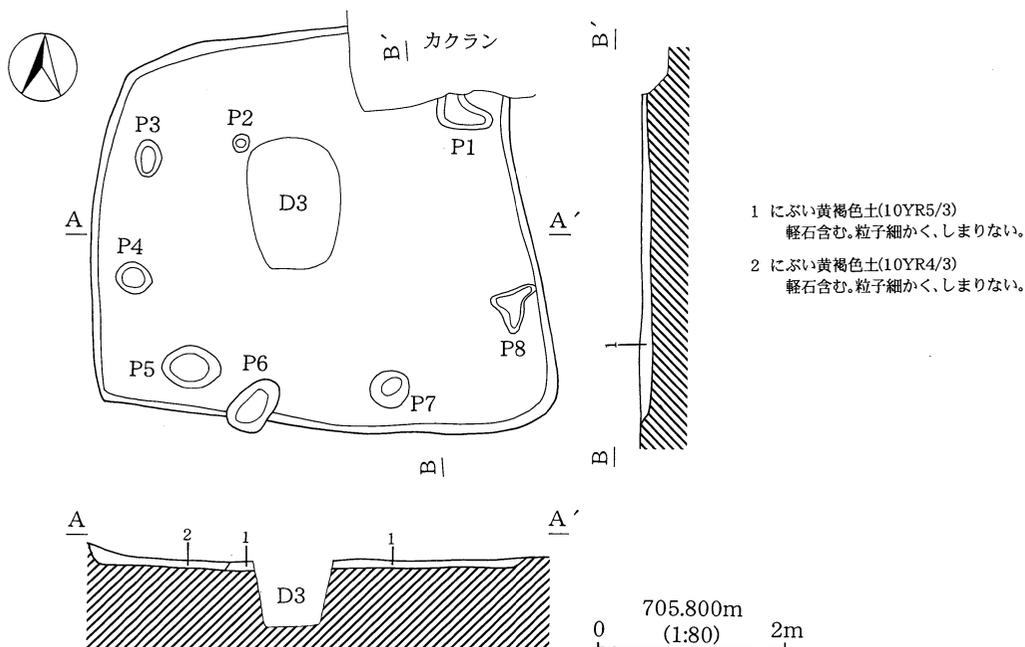
H 5 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	15.0	-	-	内面 黒色処理	25	良	2.5YR5/4 鈍い赤褐色	
2	土師器	甕	(22.2)	-	-	口縁 ヨコナデ 内面 ヘラナデ	口縁45	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色	
3	土師器	甕	(23.4)	-	-	口縁 ヨコナデ 内面 ヘラナデ	口縁45	良好	5YR5/6 明赤褐色	
4	土師器	甕	-	-	-	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ	体部のみ	良好	7.5YR7/8 黄橙色	
5	土師器	甕	-	丸底	-	外面 ヘラナデ	底部40	良	5YR6/6 橙色	
6	須恵器	壺	-	8.2	-	内外面 ロクロナデ 底部 高台張り付け	30	良好	7.5Y6/1 灰色	自然釉

H 5 号住居址出土遺物観察表

## 第 2 節 竪穴状遺構

T a 1 号竪穴状遺構

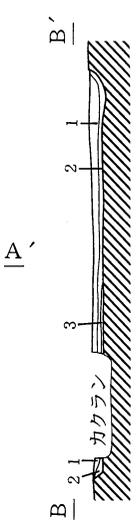
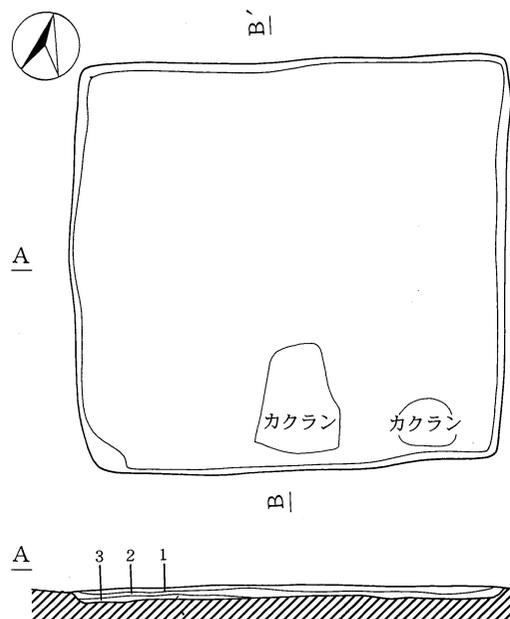


T a 1 号竪穴状遺構実測図

遺構名	検出位置	平面形	ピット
T a 1	C-え-9	方形	8
	壁長 (cm)	壁高 (cm)	出土遺物
北壁	(410)	3~7	重複遺構等 北東隅攪乱 D 3
南壁	490	5~11	
東壁	(431)	6~14	
西壁	360	3~23	

T a 1 号竪穴状遺構観察表

### T a 2号竪穴状遺構



- 1 暗褐色土(10YR3/3)  
ローム粒、軽石、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)  
粘土層。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)  
ローム粒、軽石、炭化物を含む。

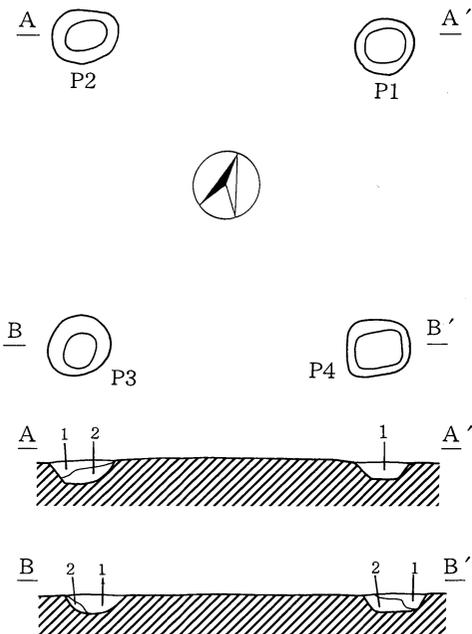
705.600m  
0 (1:80) 2m

遺構名	検出位置	平面形
T a 2	E-く-3	方形
	壁長 (cm)	壁高 (cm)
北壁	446	7~16
南壁	439	5~14
東壁	430	4~10
西壁	434	9~15

T a 2号竪穴状遺構実測図

T a 2号竪穴状遺構観察表

### 第3節 掘立柱建物址



- 1 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック、軽石含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム主体。粒子細かい。

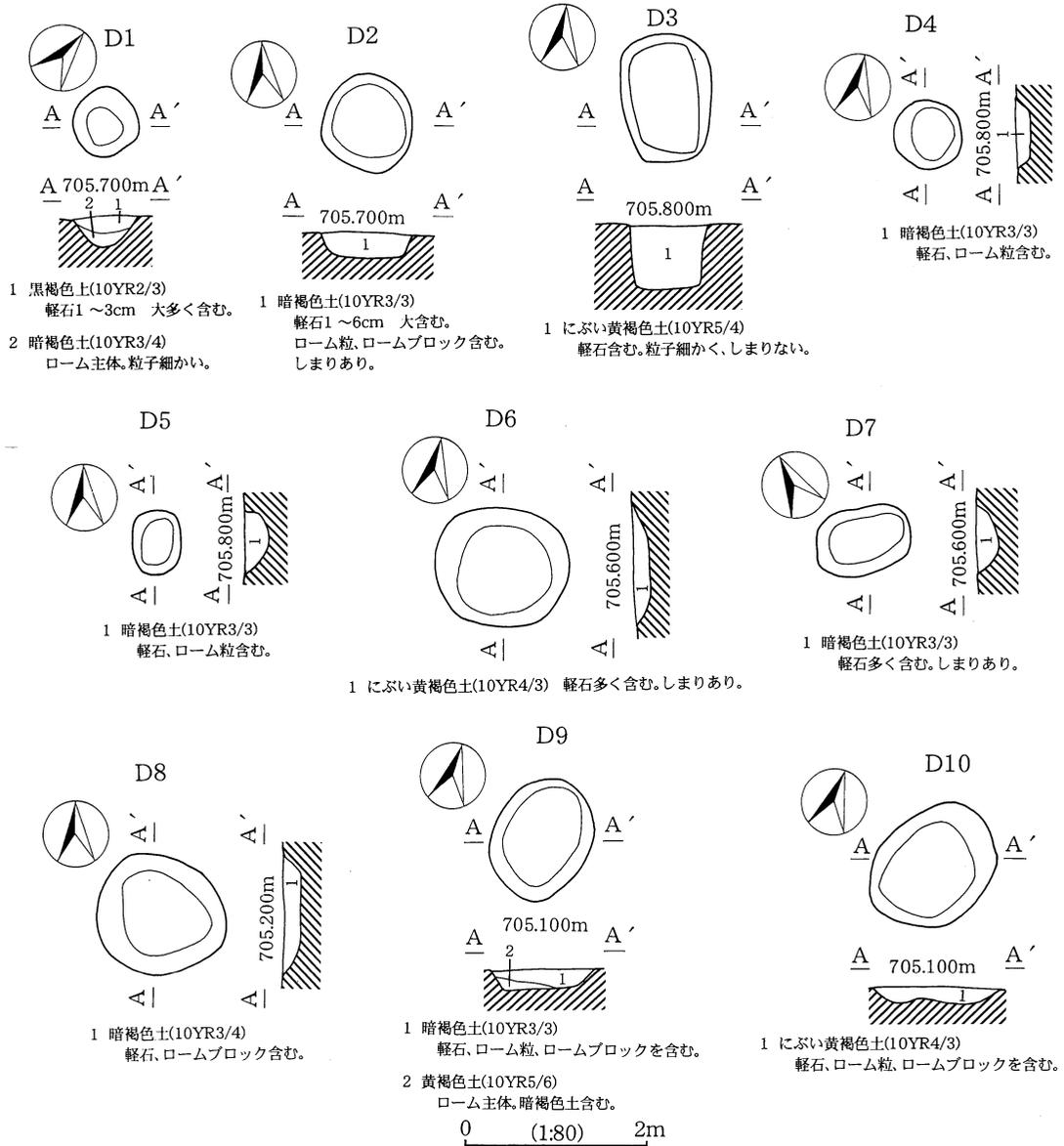
705.700m  
0 (1:80) 2m

検出位置	形態	規模(間)
C-い-8	方形	1×1
ピット形態	ピット規模(直径×深さ) cm	
円形・隅丸方形	P1-70×22	
ピット間隔(m)	P2-64×14	
	2.48~2.68	
出土遺物	P3-63×15	
	P4-70×19	
備考		

F 1号掘立柱建物址実測図

F 1号掘立柱建物址観察表

## 第4節 土坑

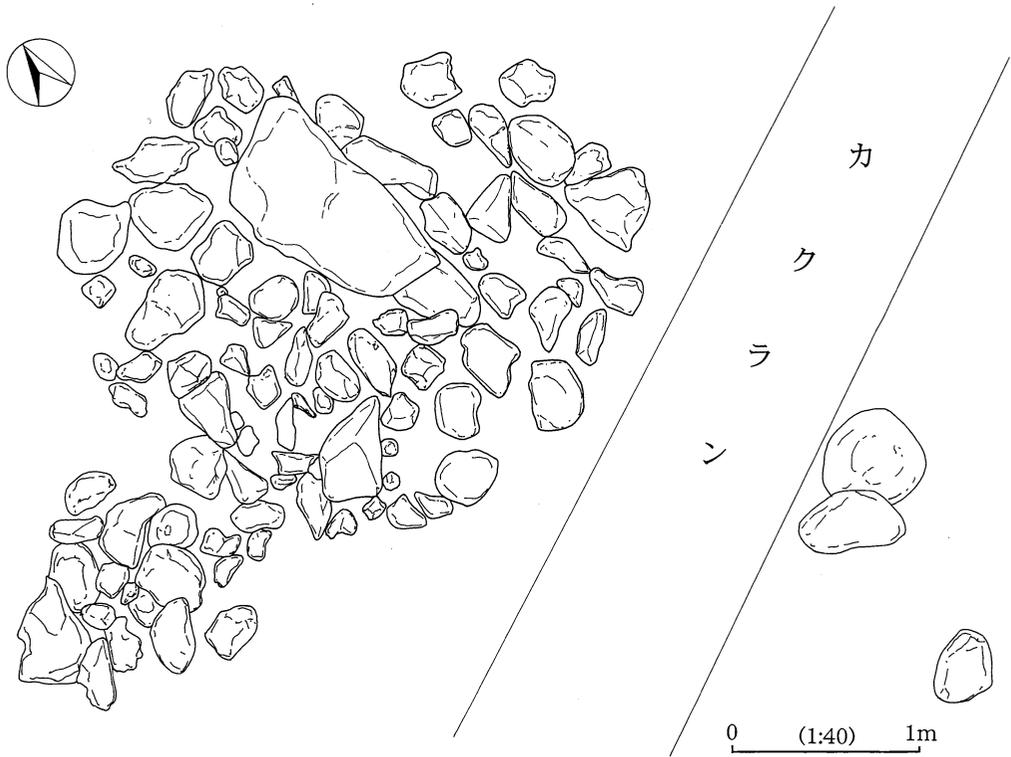


土坑実測図

遺構名	検出位置	形態	規模(東西×南北×深さ) cm	出土遺物	備考
D 1	G-い-1	円形	78.4×72×33		
D 2	C-い-8	円形	97×105×28		
D 3	C-お-9	長方形	96×96×60		
D 4	B-け-8	円形	76×72×14	須恵器・土師器片	
D 5	B-け-9	長方形	52×72×27	土師器片	
D 6	E-こ-4	円形	152×96×18		
D 7	E-く-3	隅丸長方形	98×74×17		
D 8	E-え-10	不整形円形	100×89×19		
D 9	I-え-1	不整形	112×96×28		
D 10	I-う-1	不整形	136×145×16		

土坑観察表





古墳跡内集石実測図

四ツ塚遺跡の所在する地域は以前は、古墳と考えられる幾つもの塚が存在していたとされる。しかし、現在その存在が確認されるのは昭和のはじめに行われた旧三井小学校建築に伴う造成等によって北側を削り取られた塚1基である。これは四ツ塚古墳と称し、佐久市遺跡詳細分布調査報告書に掲載されている。

今回、調査対象となった地域は、この小学校跡地にあたることから、破壊された古墳の確認が期待されたが、本調査に先立ち行われた試掘調査では古墳の確認は出来なかった。しかし、本調査によって調査区南東の四ツ塚古墳1号墳から北に約20mの地点において、古墳の周溝跡が認められた。当初この周溝は調査区外に伸びる1本の溝跡と考えられていたが、検出作業を進めるに従い、溝が円を描くように伸びていることから拡張作業を行った。その結果、周溝と思われる溝が円の4分の1程度確認でき、古墳跡が存在することが判明した。これにより古墳主体部の確認も期待されたが、南はプール跡、主体部付近はゴミ穴といったように攪乱が激しく、周溝の一部を除き完全に破壊されていた。僅かに主体部あるいは羨道に使用されたと考えられる集石が残存していただけであった。また、周溝が延びると予想される調査区北側はすでに台地を削平し道路が建設されており、古墳北側は墳丘・周溝ともに破壊されていた。

周溝は確認面での幅2.5m、底幅1.0m、深さ0.8mを測り、覆土は底付近は地山のロームを多く含む黄褐色土、その上層は粒子の細かい黒色土が堆積していた。

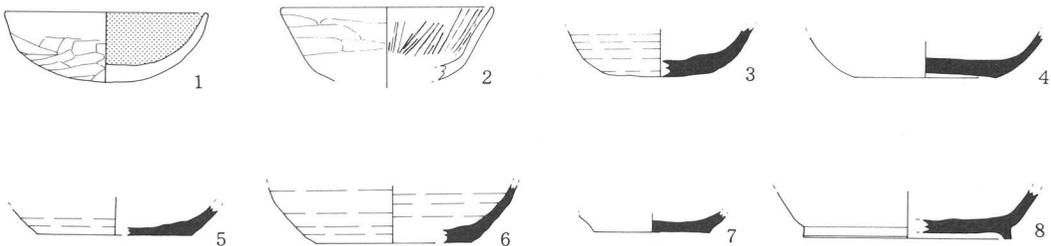
遺物は覆土中から土師器杯・甕、須恵器杯・甕・横瓶・器種不明品が出土した。また、主体部付近の攪乱からは、台付甕、人骨片（頭骨・歯）、埴輪片が出土している。

土師器杯は8世紀前半の丸底で内面黒色処理を施すものと、底部平底と思われ内面にミガキを施すものの2種が認められた。須恵器杯は高台付と平底で底部は回転糸切りの9世紀前半のものと底部全面にヘラ削りを施す8世紀始めのものが存在した。高杯は脚部のみで薄手の外面に縦方向のヘラ削りを施す7世紀末のものが認められた。長頸壺は9世紀前半の口縁部を欠損し、外面に自然釉が付着したものと、頸部のみで2点出土した。須恵器甕はいずれも小破片で大半が内面同心円の当て具痕、外面平行叩きを施している。器種不明品は土師質で木の葉を模した土器的なもので非常に特徴的であるが時期は不明である。このように、周溝内出土遺物は攪乱出土品を除くと7世紀末、8世紀始め、9世紀前半の3時期に分類可能であった。人骨片（頭骨、歯）については埋葬時期は不明だが、古墳に埋葬された人物のものと考えられる。

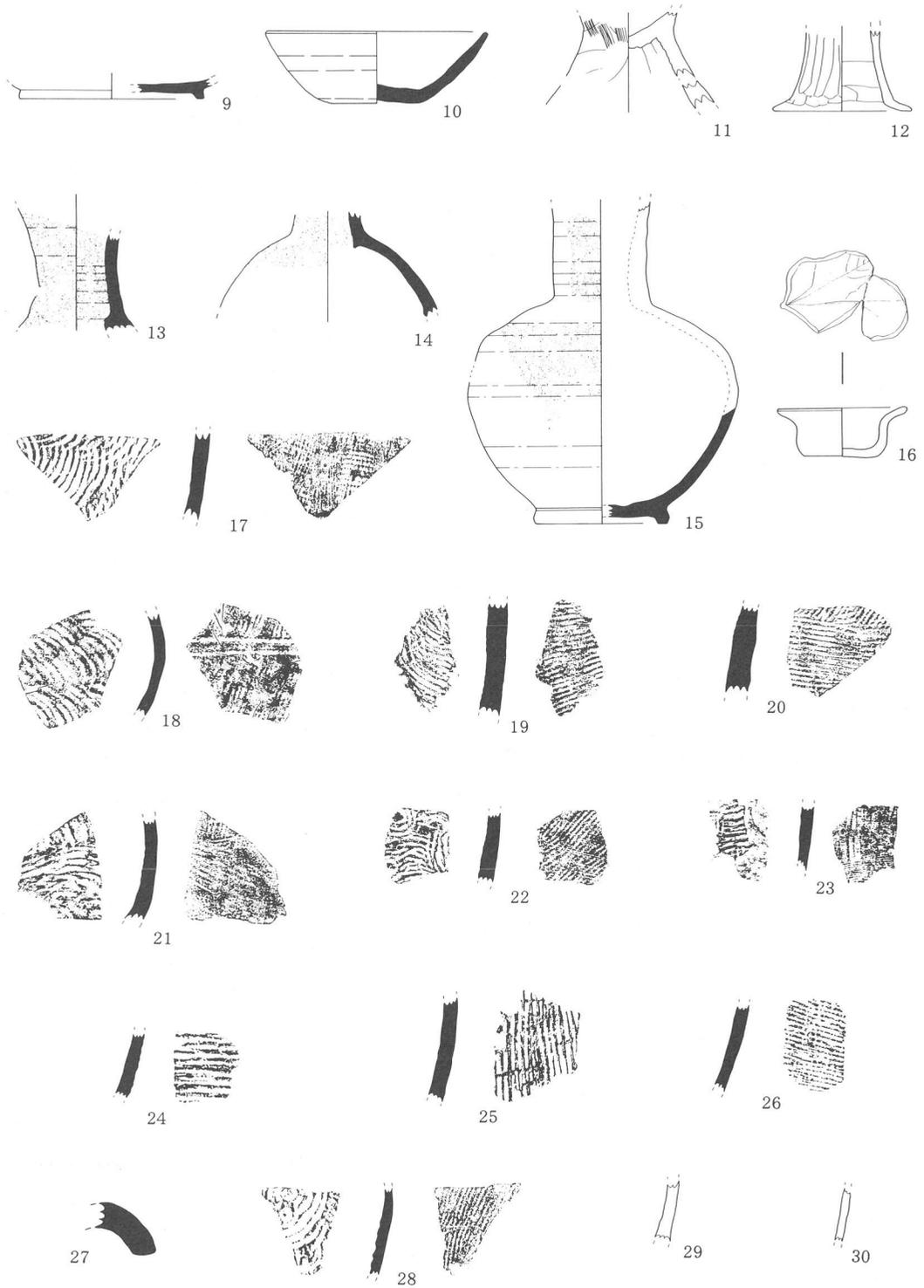
古墳の築造年代は、古墳自体大半が破壊され不明な点が多い状況であったが、僅かに残る周溝は深さがありしっかり掘りこまれていること、また主体部は半地下式であった可能性があることから7世紀末頃の古墳形態との類似が見受けられる。また古墳周溝から出土した遺物の下限は7世紀末のため、本古墳址の築造年代は7世紀末頃と想定し得る。他の遺物については遺物の時期が3時期に分類できることから、築造後少なくとも2回の追葬があったか、または後生の特殊な儀礼に使用された土器である可能性が推察できる。また、2片の埴輪については、周辺地域の状況から円筒埴輪が古墳上に飾られるのは6世紀頃であり、本古墳址の築造年代とは時期差があるため混入遺物と思われる。しかし、四ツ塚遺跡周辺に存在していた古墳群の中には埴輪を飾った古墳も存在していたのだろう。



古墳跡出土埴輪実測図



古墳跡出土遺物実測図 (1)

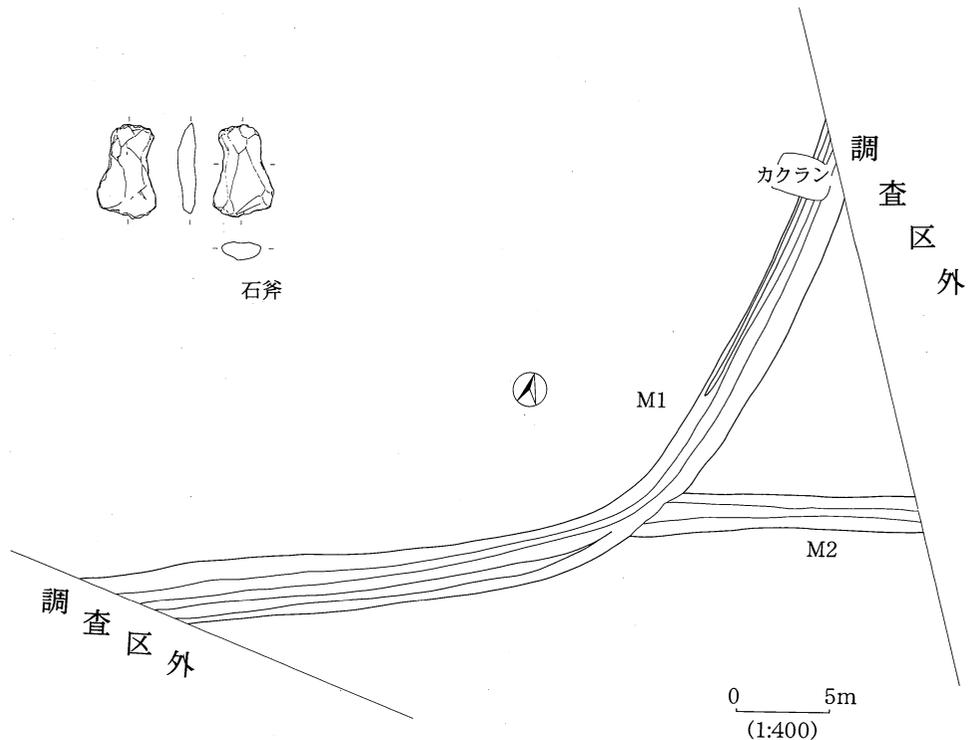


古墳跡出土遺物実測図 (2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整	残存率%	焼成	色調	備考
1	土師器	坏	10.8	丸底	3.7	外面底部周辺 ヘラ削り 内面 黒色処理	65	良	10YR8/4 浅黄橙色	8 c 初頭
2	土師器	坏	(11.4)	-	-	外面 ヘラ削り ミガキ	20	良好	5Y7/6 橙色	8 c 初頭
3	須恵器	坏	-	(7.4)	-	内外面 ロクロナデ 底部 ヘラ切り	底部45	良好	2.5Y6/2 灰黄色	8 c 初頭
4	須恵器	坏	-	(7.4)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部35	良好	2.5Y6/3 鈍い黄褐色	9 c 前半
5	須恵器	坏	-	(8.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部30	良好	5Y5/1 灰色	9 c 前半
6	須恵器	坏	-	(8.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部20	良好	2.5Y6/2 灰黄色	9 c 前半
7	須恵器	坏	-	(6.2)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	底部25	良好	2.5Y3/1 黒褐色	9 c 前半
8	須恵器	高台付坏	-	(11.0)	-	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り後高台貼り付け	底部45	良好	10Y5/1 灰色	8 c 初頭?
9	須恵器	高台付坏	-	(11.2)	-	底部 高台張り付け	底部20	良好	2.5GY5/1 灰オリーブ色	9 c 前半
10	須恵器	坏	13.7	5.4	4.4	内外面 ロクロナデ 底部 回転糸切り	75	良好	2.5Y4/1 黄灰色	9 c 前半
11	土師器	台付甕	-	-	-	脚部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	台部15	良	10YR7/6 明黄褐色	6 c
12	土師器	高坏	-	(8.5)	-	脚部外面 ヘラ削り 脚部内面 ヘラナデ	脚部15	良好	10YR7/6 明黄褐色	7 c 末
13	須恵器	壺	-	-	-	内外面 ロクロナデ 頸部 張り付け	頸部の一部	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然釉 9 c 前半
14	須恵器	横瓶	-	-	-	内外面 ロクロナデ 頸部 貼りつけ	頸部周辺 の一部	良好	5Y5/1 灰色	自然釉 7 c 末
15	須恵器	長頸壺	-	8.0	-	内外面 ロクロナデ 頸部・高台 張り付け	75	良好	7.5Y7/1 灰白色	自然釉 9 c 前半
16	土師器(?)	不明	(7.8)	(4.5)	3.0	底部 木葉痕 外面 ハケ目	50	良好	5YR5/6 明赤褐色	
17	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 同心円	体部破片	良好	N9/0 暗灰色	
18	須恵器	甕	-	-	-	外面 叩き 内面 同心円	体部破片	良好	N5/0 灰色	
19	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 同心円	体部破片	良好	N6/ 灰色	
20	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	N3/ 暗灰色	
21	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 同心円	体部破片	良好	N5/ 灰色	
22	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 同心円	体部破片	良好	10Y6/1 灰色	
23	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩きクシ目 内面 同心円	体部破片	良好	N7/ 灰白色	
24	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	10Y4/1 灰色	
25	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	2.5GY6/1 オリーブ灰色	
26	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き	体部破片	良好	2.5GY7/1 オリーブ灰色	
27	瓦	男瓦	-	-	-	内外面 ナデ	小口破片	良好	2.5GY5/1 オリーブ灰色	
28	須恵器	甕	-	-	-	外面 平行叩き 内面 同心円	体部破片	良好	N6/ 灰色	
29	土師器	甕	-	-	-		体部破片	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色	
30	土師器	甕	-	-	-		体部破片	良好	10YR8/3 浅黄褐色	

古墳跡出土遺物観察表

## 第6節 溝状遺構



溝状遺構実測図

本遺跡において溝状遺構は2条認められた。M1号溝状遺構は、調査区東の区域外との境界から確認でき、南方向におよそ20m延びた地点から、緩やかなカーブを描き西方向に向きを変え調査区域外に至る。確認面上での幅は2.5~3.5m、底幅は0.45~0.80m、深さは0.70~1.0mを測る。形状はV字を呈し、確認された溝のほぼ中央に位置するカーブ以北では西壁にテラスを持ち、カーブ以西では南壁にテラスを持つ。覆土は上層で黒褐色土、中間層は暗褐色土、下層は地山ロームを主体とする黄褐色土であった。遺物は上層の黒褐色土内から流れ込みと考えられる石器・須恵器・土師器の小破片が僅かに認められた。M2号溝状遺構は、調査区東の区域外との境界から確認でき、西方向に14m延びた地点においてM1号溝状遺構と合流する。確認面での幅は1.8~2.2m、底幅0.5~0.9m、深さ0.3m内外を測る。覆土は黒褐色土であった。遺物は上層から流れ込みと考えられる須恵器・土師器の小破片が僅かに認められた。本溝状遺構の掘り込まれた年代は、調査区に限られていたため遺構の全体像を伺い知ることができなかったこと、時期を特定しうる遺物の出土が得られなかったことから正確な時期決定には至らなかった。しかし、溝の形態がV字状を呈し、しっかり掘り込まれていること、付近には城跡と呼ばれる地域が認められることなどから、中世である可能性が強いと考えられる。



四ツ塚遺跡 I 全体航空写真



四ツ塚遺跡 I 航空写真（北から）



四ツ塚遺跡 I 航空写真（西から）



調査風景 (1)



調査風景 (2)



調査風景 (3)



調査風景 (4)



H1号住居址



H1号住居址セクション



H1号住居址かまどセクション



H1号住居址かまど



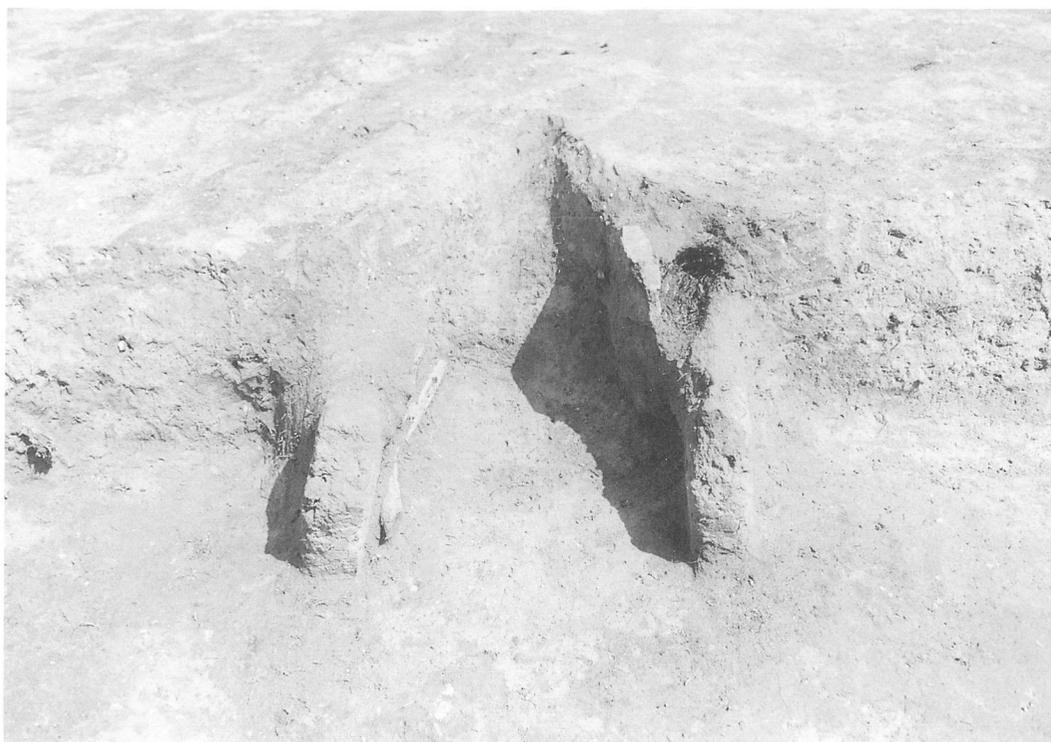
H1号住居址かまど堀方



H1号住居址堀方



H 2 号住居址



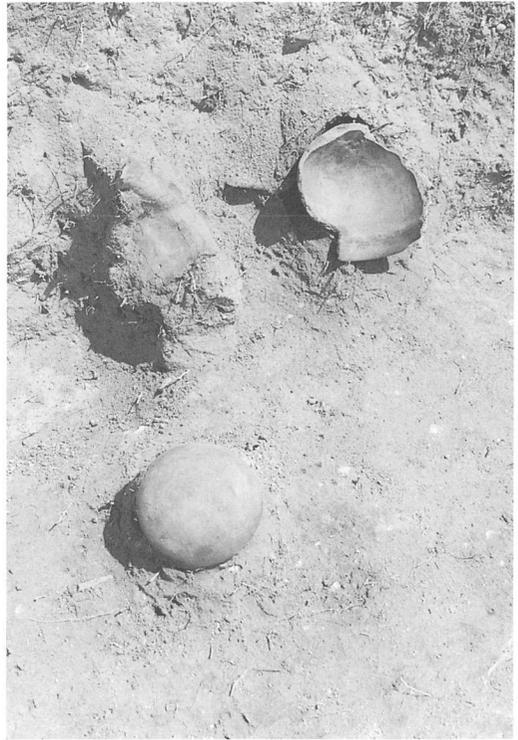
H 2 号住居址かまど



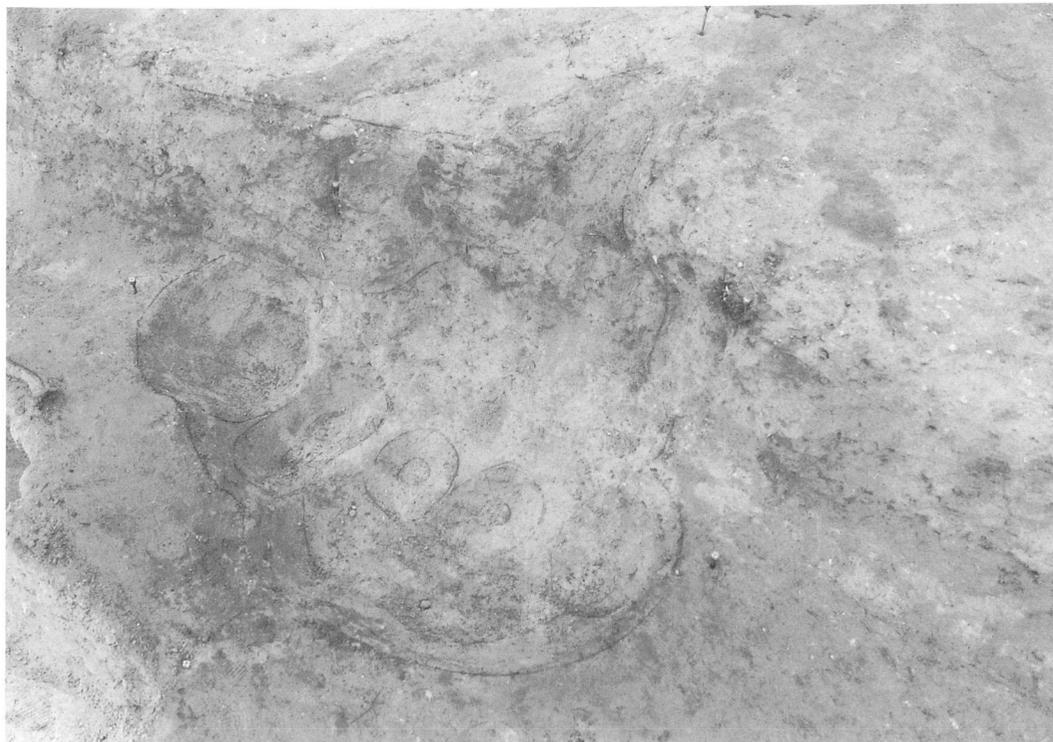
H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址かまど堀方



H 2 号住居址堀方



H 3 号住居址



H 3 号住居址かまど



H 3 号住居址調査風景



H 3 号住居址遺物出土状況



H 3 号住居址遺物出土状況



H 3 号住居址堀方



H 3 号住居址かまど堀方



H 4 号住居址



H 4 号住居址かまど



H 4 号住居址かまど



H 4 号住居址遺物出土状況



H4号住居址かまど堀方



H4号住居址堀方



H 5 号住居址



H 5 号住居址かまど



H 5 号住居址遺物出土状況



H 5 号住居址セクション



H 5 号住居址堀方



T a 1 号竖穴状遺構全景



T a 2 号竖穴状遺構全景



F 1号掘立柱建物址全景



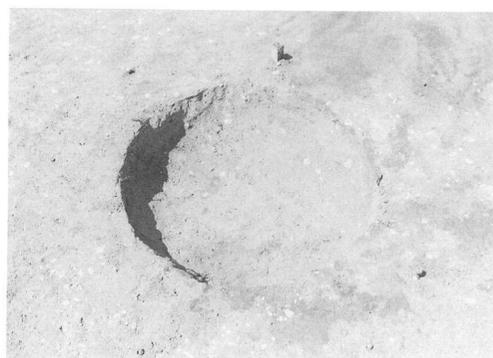
D 1号土坑全景



D 2号土坑全景



D 3号土坑全景



D 4号土坑全景



D 5号土坑全景



D 6号土坑全景



D 7号土坑全景



D 8号土坑全景



D 9号土坑全景



D 10号土坑全景